

第1回リデュース部会会議録

1. 日 時

平成17年8月29日 15時20分～16時20分

2. 場 所

塩谷広域行政事務組合 1階大会議室

3. 出席者

職 名	氏 名
部会長	(学識経験者) 西谷弘子
委員	(矢 板 市) 小松(欠席)
	(さくら市) 菊池崇雄 蛭田幸子
	(塩 谷 町) 松尾享子
	(高根沢町) 君島 毅
	(地元住民代表) 高塩克敏
	(アドバイザー) 今泉繁良
事務局	(日本技術開発) 古田秀雄 宮澤俊介

4. 議事項目

- ・現在、各市町で取り組んでいる項目の整理
- ・取り組んでいる項目の中で浸透していない項目の整理
- ・今の取り組みをさらに進めるために必要な啓発・PR 活動について
- ・新たに取り組める項目の検討
- ・その他

5. おもな意見

- ・リデュースは、リユースやリサイクルとも深く関わっているため、区別せず全体的に検討していく。
- ・検討項目としては、家庭・事業所からの生ごみや学校給食残さの資源化、給食の牛乳パック(ストロー等含む)資源化、剪定枝の処理、雑紙の分別方法と資源化が挙げられる。
- ・学校給食の牛乳をビン化することが望ましいと考える。
- ・大人が率先して取り組んでいくだけでなく、子供達への教育も行っていく必要がある。
- ・ダイレクトメールや新聞広告の停止など手間が掛かることだが、不要なものについては減らしていく努力をしていくべきである。

6. 会議録

事務局（日技）より、「Reduce（発生抑制）」について説明。

- ・リデュースとは、ごみの排出を元から絶っていかうとする考えであり、国が示している 3R の中で、一番初めに位置する事項である。大量生産、大量消費、大量破棄の社会情勢の中で、検討を行っていくのは難しい問題であるが、大変重要なことである。

【アドバイザー】

- ・発生抑制といっても、新聞をとるな、などといった必要なことまで制限することではない。

【部会長】

- ・前回の検討部会では、紙類リサイクルの拡大やその他プラスチック、発泡スチロールの分別について検討を行っている。

【委員】

- ・リデュースは、リユースやリサイクルとも深く関わっているため、区別せずに検討していくべきである。また、具体的にどのようなことがリデュースとなるのか。

【部会長】

マイバック運動や過剰包装をやめていくことが挙げられる。リデュースについては、全体的に検討していくこととする。

【アドバイザー】

- ・今現在、広域内の可燃ごみで一番多くの量を占めているのは紙類である。そこで、ダイレクトメールやちり紙といった焼却ごみにしかない雑紙について検討してはどうか。
- ・最近では、学校給食を残す子が多いと聞いている。

【委員】

2市2町から発生する学校給食残さの処理は、山形県の事例（エコピッグ事業）を見習ってはどうか。また、学校給食でだされる紙パックの牛乳は資源化しているのか。

【矢板市担当者】

矢板市の学校では、紙パックを回収しトイレットペーパー等に資源化して、学校に配布している。回収は、各学校の生徒が委員をつくり行っている。大きい学校は月に2回、小さい学校は月1回の間隔で回収を行っている。

【委員】

子供の意見では、ビンの牛乳の方がおいしいとの意見もある。ビンの牛乳にすることで、資源の抑制に繋がると思う。ビンの牛乳にすることで、人件費やコスト等の問題が生じるため難しいのか。

【矢板市担当者】

紙パックの方が安いのは確かである。

【部会長】

給食費等との問題も関係してくるのではないかと。ビンにすることで給食費の値上がりとなる可能性もある。

【委員】

- ・シャンプーや洗剤等の詰め替え容器も、面倒などの理由からあまり進んでないのではないか。

【部会長】

販売価格にもよると思う。

【委員】

- ・学校から排出される剪定枝は、現在どのように処理をしているのか。昔は校内で焼却処理していたが、今は禁止されている。なぜ、燃やしてはいけないのか。

【委員】

高根沢町ではチップ化している。私は、1年に1回程度剪定枝をチップ化し、庭にまいている。チップを撒くことで、草が生えてこない。また、チップ化は安価でできている。

【事務局（日技）】

- ・家庭からの食べ残しも多く、生ごみのうち家庭からの食べ残しが30%を占めるというデータもある。

【アドバイザー】

買ってきたお惣菜など、自分の家で調理していないものを捨ててしまうことが多い。

【委員】

ごみの排出量を減らしていくためには、個人の意識が重要である。

【アドバイザー】

大人が率先して取り組んでいくだけでなく、子供達への教育も重要である。

【部会長】

- ・紙についても、何でできているかわからないものも多い。ダイレクトメールは、送ってきた相手にもう送らなでほしいと手紙を出すことでなくなるらしい。手間が掛かることだが、いらぬものについては減らしていく努力をしていくべきである。

【部会長】

- ・今後の検討項目として、以下のことが考えられる。

食べ残し（家庭、学校給食）

給食（牛乳パック、ストローなどの資源化）

剪定枝の処理

雑紙の処理

【矢板市担当者】

学校給食残渣は、矢板市泉中学校のみ処理機で処理している。基本的には広域で焼却処理している。給食残さの個別の発生量は把握していない。

【アドバイザー】

- ・紙類では、ティッシュ等が多いのだろうか。

【部会長】

お皿や野菜を拭くときにキッチンタオルを使ってしまう時がある。

【部会長】

- ・飲食店などの事業所から排出されるごみも一般廃棄物として処理されるため、事業所の協力も必要となってくる。

【委員】

ホテルなどでは自分達で処理を行っているのか。

【部会長】

本広域内では、そのような処理を行っている事業所は少ないだろう。

【部会長】

- ・本日の検討結果をまとめると、検討項目として「学校給食残さ」「事業系のごみ処理状況」、新たな施策（案）として「給食の牛乳のビン化」が考えられる。

【委員】

- ・新聞に入っているチラシの量も多い。

【部会長】

チラシは新聞店に入れなくて欲しいとたのめば、チラシを入れずに配達してくれる。しかし、広報等も一緒に除かれてしまうため、地域のセンター等へもらいに行かなくてはならなくなる。このように、皆さんが知らないことが多いと思う。

リデュース部会終了